

7月14日午後、グランドヒル市ヶ谷「芙蓉の間」にて平成22年度電気規格調査会規格委員総会を開催いたしました。

規格委員総会では、平成21年度電気規格調査会事業報告、平成22年度事業計画の報告ならびに人事異動に伴う2号委員および3号委員の交替の報告が行われました。



電気規格調査会規格委員総会の様子

また、議事の最後に、5回目となる電気規格調査会功績賞・功労賞の表彰式を執り行いました。功績賞は林洋一氏と細川登氏、功労賞は堀江宏道氏がそれぞれ受賞されました。

林洋一氏は、パワーエレクトロニクス部会初代部長として、また、パワーエレクトロニクス標準化委員会委員長として制定を推進されたパワーエレクトロニクス関連電気規格調査会標準規格は国際標準との整合化を図る一方、日本の実情を十分取り入れたものとなりました。また、電気規格調査会活動を活性化させるとともに国際電気標準会議(IEC: International Electrotechnical Commission)のパワーエレクトロニクス専門委員会および分科委員会の国際会議を成功裏に日本開催し、厳しい国際間競争が続く分野における我が国技術の国際標準化に大きな成果を挙げられました。

細川登氏は、電気規格調査会標準規格「特殊変圧器」の規格改訂に際し、希頻度であっても欠くことのできない特別な用途に使用される試験用変圧器、誘導電圧調整器、始動変圧器などについて最新の知見を反映させ、主導的な役割を果たされました。また、日本の先進的技術製品である

ガス絶縁変圧器に関する技術がIEC規格として制定されるにあたり、日本提案に向けた国内審議において積極的に取り組まれ多大な貢献をされました。

堀江宏道氏は、磁性合金および磁性鋼など磁性材料の磁気特性測定に関する技術の発展・向上とその標準化推進に関し、電気規格調査会標準化委員会において15年の長きにわたり標準化を推進されるとともに後進の育成にも尽力されるなど多大な貢献をされました。また、IECの規格審議においても積極的に参画され、磁気特性測定法におけるデジタル測定手法の導入やモータなどの電磁界解析に必要となる直流磁気測定法において、我が国で用いられている実用的な断面積の計算手法を導入するなど、我が国技術の国際標準化に主導的役割を果たすとともに実質的な貢献をされました。

受賞に際し、細川登氏から、「特殊変圧器」の規格改訂は委員会委員の助力のおかげであり感謝している、功績賞の受賞は光栄であり、これを励みに今後も規格の制定・改訂作業を積極的に進めていきたい。また、堀江宏道氏から、功労賞を受賞し感謝している、IEC/TC68(磁性合金および磁性鋼)国内委員会全体の受賞と思っており感謝している、受賞を励みにこれからも頑張りたい、と謝辞挨拶が行われました。



後列左から片瓜副会長・松村会長・佐藤理事，前列左から細川氏・堀江氏（林洋一氏は当日欠席）